

『ミートソース・グラヴィティ』 作／小栗 剛

【登場人物】

直志 調理師。たよりない。哲学好きだが、あまり頭は良くない。2回目の人生を歩んでる。
チヨ 直志の「前回」の恋人。現在は男「セイイチ」。9回目の人生を歩んでる。
あかり 現在の直志の恋人。既婚者。

これは、テーブルに置かれた小さな一皿にまつわる、壮大な恋の話。
登場人物たちは同じ時代、同じ時間の人生を生まれ変わりながら何回も繰り返す、ループの輪の中にいる。

【レストラン】

杉並。住宅地、小さな個人経営の洋食屋。クリスマス。
閉店後。直志がいる。アルバイト達が直志にお疲れ様などと言いながら帰っていく。
あかり、現れる。シャンパンを持っている。

あかり お疲れ様。
直志 終わったー。
あかり 終わったね。帰らないの？
直志 いろいろ、整理がね。閉店つうとなんか、いろいろあって、大変なんだよ。
あかり 大変だね。
直志 オーナー、自分でやれつうの。俺、バイトなのによ。
あかり しょうがないじゃん。
直志 手伝う？
あかり 帰るよ。
直志 ……うん…。
あかり うち帰るよ。
直志 だよな！
あかり クリスマスだから！
直志 ああ、…あさっての、忘年会、顔出す？
あかり ううん。もう、いないから。
直志 じゃあ、今が最後じゃん。
あかり なが。
直志 会うの。
あかり そうだね。

直志 (シヤンパンを指し)旦那さんに??

あかり うん。奇跡的に一本売れ残ったから。安く売ってもらっちゃった。

直志 よかったね。

あかり これ、好きだから。

直志 旦那が??

あかり :私が。好き。

直志 俺も。

あかり 何??

直志 好き。

あかり ごめんね。

直志 このシヤンパンがだよ!あやまんなよ。ムカつくな。

あかり イライラしないーい。

直志 してねえよ。

あかり イライラしてばっかだったね。

直志 (舌打ち)

あかり なんだよ。

直志 俺が、もつと男らしくつかさ…そしたら、

あかり だから、直志くんがどうかそついう問題じゃないって。だって、もう決めたことじゃん。直志くんも納得してたよね??

直志 いや。ラインでの僕たちのやりとりをね。最初の頃からずーっと見返して検証してみたんだけど、5月27日が最後なんだよ。あかりの方からの自発的な「好き」っていう意思表示。それに伴って君のスタンプ文化の使い方も雑になってきていたからね。

あかり それは、私たちにおけるスタンプ文化が、過渡期に入ったっていうか、

つまりその日に何かしらの事象が発生していたわけだよ、ね?続けますよ。

あかり まどろっこしいよ。はっきり言ったら??

直志 :ごめんね!お前好みの男じゃなくて。なれなくて。半年間も我慢してくれてあり

がどう。でもなあ!!

あかり 被害妄想。

直志 ちがうよ。綿密に検証したんだから。

あかり 我慢なんかしてないよ。

直志 どう考えてもさ!お前さ!他にさ!

あかり 我慢なんかしてない、って。ほんと人の話聞かないね。何?どう考えても、何?

直志 :なんでもねえよ。

あかり 侮辱する??

直志 え??

あかり 「えっ?」じゃないよ何??

直志、頭を抑えながら、

直志 いや、前にもまったく同じ会話？情景？

あかり 前の女？

直志 ちがうよー！

あかり 何言おうとしたの？今。

直志 (言葉を飲み込んで) …なんでもない。

あかり 帰っていい？

直志、あかりに触れる。

あかり 約束が違うよ。わかってくれたんじゃないの？

直志 あかり。

あかり わかって？

直志 だったら言って欲しい言葉あるよ。

あかり …。

直志 だって、今、最後なんですよ？

あかり、シャンパンを開けようとする。

直志 何やってんの？

あかり メリークリスマス。

直志 いいのかよ。

あかり 去年のクリスマス楽しかったね。

直志 待って。

直志、頭を抑える。

あかり 待たないよ。

直志 待って待って…！

あかり 何？

直志 デジャヴ。

あかり なんなのもう。この期に及んでそんな引き止め方？そんなの…。そんなの知らないよー！へっほー！

あかり、シャンパングラスをふたつ取りに行く。

直志 「そんなの知らないよ。」

直志、気を取り直し、

直志 旦那と一緒に盛り上がるために買ったシャンパンじゃねえのかよ。開けちゃったら、クリスマスパーティの、ふたりの、一番の盛り上がりポイントが台無しじゃねえかよ。メリークリスマス！つって。シュポーン！つって。で、ワー！つって、そういう段取り、誰だつて大切にしたいものだよ！日本に西洋形式のパーティ文化が根付いた背景にはさ、
つるっさい、つるっさい。

直志 (ブツブツと) なぜシャンパンは音がするのか。そこから哲学しないとダメなんだよ。パーティにおける音って大切なんだよ。開けても、音が鳴らなかつたさ。その後の食事にどんな影響が発生するか、そういう些細なことを君は軽視しすぎる傾向があつて、

あかり、直志を遮って、シャンパンをグラスを注ぎ、持つ。

あかり この前、お話した時に私に言ったこと、もう一回言つて。

直志 …生まれ変わったら、また会おう。

あかり ちよつと違う。やりなおし。

直志 今度生まれ変わったら、もうちよつと早めに会おう。一生懸命お前のこと探すし、会ったらまた好きになるに決まつてるし…

あかり (小声で) ダラダラダラダラ…

直志 今回は、見つけるの遅れちゃつてごめん！

あかり そんなダラダラ言わなかつた。もつとかつこよく言つた。もう一回！

直志 「生まれ変わったら、結婚しよう。」

あかり (掠れた小声で頷きながら)…うん。

直志 チヨ。」

あかり チヨ？

直志 …チヨ？

あかり チヨ！？

直志 チヨ？

あかり (自分を指して) あかり！

直志 うん。

あかり 私…あかり。

直志 知つてる。

あかり 誰っええ？この期に及んで他の女の名前出す？

直志 ださない。だすわけない。

あかり だしたじゃん。

直志 俺もびっくりしてんだって！だすかよ！なんだ？逆にすこいわ。俺すこいよ。誰だよチヨッて。

あかり いいよもう。もういい！もういい！最後だから言っよ。私は……私が言いたいの……。

直志 何？

あかり (言葉を飲み込んだ後……)「生まれ変わったら」とか言っの……。おそらく、松田聖子以来だよ。そんな事言われて納得するのなんか郷ひろみオシリーだよ。苦し紛れに言ってくれたのかもしれないけど……。

あかり、夫からの携帯電話の着信に気づく。直志の顔を見る。

直志 うん。

あかり、去る。

直志 生まれ変わったら。

直志、泣いてエプロン(か何か)を叩きつけて、

直志 バカかよ……？

直志、頭を抑えて、

直志 バカかよっつって、泣いてて、そうすると、俺の、好きな人が、

直志、足音に気づき、

直志 あかり？

セイイチ、現れる。

セイイチ お疲れ様です。

直志 お疲れ様です。

セイイチ、シャンパンを見てる。

直志 いや。セイイチさんと呑もうと思ってる。

セイイチ ちがうでしょ？俺が残ってたの知らなかったでしょ？

直志 知ってました。

セイイチ じゃあ、いただきます。

直志 だめ！

セイイチ 俺の分じゃないんですか？

直志 あ。ひとりでパーティしようと思ってる。

セイイチ 何も隠そうとしなくていいですよ。だってさっき俺が売ったんですもん、あかりちゃんに。

直志 あ。ああ…。

セイイチ ひとりでパーティとか、ほんとだったら狂ってるでしょ。怖いっすよ。

直志 狂ってますよ。

セイイチ そっすか。

直志 ほんとに好きなんすよねえ。

セイイチ だってあの人、既婚者でしょ？

直志 好きになった後に、その事知って。

セイイチ そうなんですよねえ。

直志 は？

セイイチ え？

直志 なんすか？俺今、初めて人に話してんすけど。

セイイチ 内緒にしてたんですか？

直志 そんな、どこからどう旦那に知られるかわかんないのに、バレちゃマズいじゃないですかあ。娘も絶対、誰にも言っていないって。

セイイチ 言わなきゃバレないってもんじゃないすよ。ズサンなんですよ。ほんと。おふたりともまったくもって、不倫なんかできるタマじゃないっすよ。

直志 なんで？え？なんで？

セイイチ 営業中の忙しい時にさあ。みんなの隙をついてたつもりなんだろうけど、結構みんな目撃してますからね。

直志 何を？

セイイチ ペッティングだよバカ。

直志 えー？…。ペッティングう？…

セイイチ うん。

直志 嘘でしょ？

セイイチ

「嘘でしょ？」は「うちだよお。」嘘でしょ？」ってみーんな言ってたよお。「怖いー」って言ったよお。だって、バレちゃいけない人があ、仕事中にい、ペッティングするう？ちゃんと隠せよお。みんなに気いつかわせんよお。大胆すぎんよお。ズサンなくせに大胆って事故しか起こしませんからね。

直志

やだー、もう。

セイイチ

恥ずかしい？

直志

恥ずかしい！うわー。時間戻って欲しい！やりなおしたい！

セイイチ

うん。やりなおそう。

直志

うわー！え？旦那には？旦那にはバレてない？

セイイチ

知らねえよ。バレちゃえよ、もう。

直志

やだよ。バレたら殺されるよ。だって、営業ピーク時に、ペッティングするう？

セイイチ

おめえだよ。

直志

信じられないよね？

セイイチ

信じられないよ。

直志

そうだよね？もし旦那の耳に入っても、信じられないようなことから、信じないだろ？から、だじじよぶか！

セイイチ

変なとこにすがってんじやないよ。

直志

だって、「事実をいくつ並べても真実には辿り着かない」って、僕の好きなギリシャ哲学の重鎮であるソクラテス師匠が、

セイイチ

しつかりしろ！

直志

だって…。そんなのバレちゃったら、あの娘のしあわせが…。

セイイチ

(やさしく笑って)腹減ったんで、なんか、作ってくださいよ。

直志

かたしちやいましたよ。

セイイチ

もう一回かたせばいいじゃないですか。一緒に手伝いますよ。

直志

どつか店行きますよつよ。

セイイチ

いいんすか？あかりちゃん、電話終わったら戻ってくんでは？「ニ」。

直志

うん。

セイイチ

自分が心底惚れた女に、最後に自分の作ったメシ喰わす、って、なんかいいじゃないすか。

直志

うん。

セイイチ

ちよつと哲学つぽいでしょ？

直志

ん？…うん。

セイイチ

哲学じゃねえか。

直志

うん。哲学じゃない。

セイイチ

なんでもいいよ。

直志

なんにします。

セイイチ メニューにないやつでもいいですか？

直志、頭に手を添える。マジヤフ中だが、セイイチには気づかれないようにしている。

直志 「僕が作れるやつならば。何がいい？」

セイイチ ……ミートソース。

直志 ……え。

セイイチ ミートソース。スパゲティ。

直志 うん。

セイイチ 何？

直志 だと思った。

セイイチ そう。

直志 よりによって一番めんどくさいやつだよ。

セイイチ だめ？

直志 いいよ。作る。…材料全部あるかな。まずそこからだよ。「なんだよ、もう、めんどくせ

ーな。最後に喰うやつなんだから、店のメニューにしろよー。」

セイイチ だめ？

直志 いいつつつてんの。

セイイチ どうしたの？

直志 わかんない。なんか涙出てくる。

セイイチ 狂ってるからね。

直志 うん。恋つつつらいつすよ。

直志、準備を始める。材料を並べ始める。

セイイチ 恋じゃないでしょ？

直志 恋ですよ。

セイイチ 不倫でしょ？

直志 不倫じゃないです。

セイイチ 俺は最初からわかってましたけどね。

直志 最初？

セイイチ あの娘がうちの店入ってきた時から。

直志 何がわかったんですか？

セイイチ 直志くん、好きになるだろうなー、って。

直志 なんだよそれ、気持ちわりい。俺の何を知ってんすか。セイイチさん、俺とそんな仲良

くないじゃいますか。

セイイチ 避けてましたからね。

直志 そうだよー。俺、たぶんこの人気が合うなー、って思ってたのに。

セイイチ 避けますよ、そりゃ。

直志 なんで！いいやつだよ俺。

セイイチ いざ実際会ってみると、緊張しちゃうって、何から話したらいいか、わかんないじゃないすか。

直志 はあ？

セイイチ、バッグからクリアファイルを出し、レシートを並べ始める。

セイイチ やつと会えたー、みたいな人、いませんか？

直志 「いるよ。」

セイイチ それが、たーちゃんだったんだよ。

直志 たーちゃんとか、何？急に。

セイイチ 気持ち悪いね。

直志 まだ続いている。

セイイチ どうしたんすか？

直志 デジヤブ。

セイイチ、あかりの分のシャンパンに口を付けてしまう。

しかし、直志は何も言わない。

セイイチ 俺、あかりちゃんのやつ呑んじゃってんだけど、何も言わないの？

直志 …。

セイイチ …。

直志 …。

セイイチ (また呑んで)これ、口当たりいいね。

直志 (同時に)「口当たりいいね。」

間。

セイイチ 後味が独特だけど嫌いじゃない。美味しい。待つて？本当に美味しい。本当に美味しいものって、口にすると、風景が広がるよね。

直志 「本当に美味しいものって、口にすると、風景が広がるよね。」

セイイチ …漫画みたいに。「のシヤ

直志 このシャンパン、阿佐ヶ谷の味がするよ。冬の寒い日、昼間だからまったく人気の無い

北口の汚い飲み屋街を「夜に来てみたいねー」って言いながらのんびり歩いている。飲み屋街を抜けたらヴィオロンって言う喫茶店があって、「琥珀色のポロい窓がイカしてる。でも今お金無いから部屋に帰ろう。また今度来よう」って言って、結局どこにも寄らずに私たちの散歩は終わっちゃうの。手袋していると繋いでる感触が無いから、かたっぽずつ脱いで、繋いで、でもやっぱりそれだと手が冷たいから、私のポケットの中で繋いでるんだけど、男が女のポケットに手を突っ込んで歩いてる絵は、ほんのりと痴漢してるようにも見えるんだ。このシヤンパンは、そんな味。

セイイチ

意味わかんないよ。

直志

すみません。ちょっと思いつくまま、喋っちゃいました。

セイイチ

直志くん、呑んでないじゃん。呑んでないくせに、なに味語ってるの？言ってること変だし。

直志

ちょっと、楽に話していい？

セイイチ

なんか、苦しそう。

直志

そう。苦しいから。ちょっと、楽に話したい。

セイイチ

いいよ。

直志

さっきの話に戻るけど、やっと会えたー、みたいな人、いませんか？

セイイチ

楽に話していいって。

直志

セイイチさん。

セイイチ

。。

直志

セイイチさん。

セイイチ

どうして返事しないんですか？セイイチさん。

直志

。。

セイイチ

そつですよ。しないですよね。しねえよな。そつだよ。

直志

楽に話してよ。やっと会えたんだから。

セイイチ

生まれ変わったら、また会おう。一生懸命お前のこと探さし、会ったらまた好きになるに決まってるし。。生まれ変わったら、結婚しよう。

直志

。。

セイイチ、レシートを並べ直す。

直志

チヨ。

セイイチ

はい。

直志

嘘だろ？。。。。

チヨ

チヨです。

直志

ええええええ！？

チヨ

チヨです。(レシートを並べてる。)

直志 レジューターいー(レジューター散らかす)

チヨ、レジューターを拾ってまた並べなおす。

直志 待て待て。こんなこと簡単に信じていいのか？まず、俺はバカだ。そしてズサンだ。おまけに狂ってる。こんな時は冷静に。ひとつずつ物事を理解することが大事だ。簡単に信じるな。直志！現実にしがみつけ！

チヨ たーちゃん。

直志 まずそれなんだよなあ。それ呼ぶやつ俺の現世で独りもいないんだよなあ。それ呼んだのチヨだけなんだよなあ。

チヨ 無駄にあがいてないでさ。もう、チヨの存在認めちゃってるじゃん。それ、前世の人だし俺だから。

直志 …。

チヨ やつと会えた。

直志 チヨ。

はい。

直志 男なんだよなあ！どこをどうみても男なんだよなあ！

直志、うなだれる。

直志 チヨ。

はい。

直志 返事すんじゃねえよ、ブス。

チヨ チヨなんだからしょうがねえじゃねえかよ。

直志 なんで男なんだよ！

チヨ なんだよ、やつと会えたのに！俺がどんだけ苦労してお前に辿り着いたか俺って言うな！

チヨ 男で生きてきちゃったんだからもう手遅れだよ！

直志 チヨの面影が絶望的にゼロなんだよ！

チヨ 信じろよ。俺はチヨだよ。

直志 俺って言うな！せめてチヨらしく！

チヨ 私を、信じてください。

直志 信じてるよ…信じてるよ！でも、信じたくないんだよ！

チヨ たーちゃん。

直志 ブス！！

チヨ ひでえよ。

直志 だって。チヨ、かわいかったもん。

チヨ あいつに似てたよな。あかり。

直志 だからか。

チヨ うん。最初見た時、「あ、この女俺だ」って思ったもん。俺の魂、入るべき体これだったわって思ったもん。すまん、って。だから、案の定お前があかりのこと好きになった時、ちよっと嬉しくもあつた。でもやっぱり、それ俺じゃねえよって思って、複雑だった。

直志 今の俺の方が複雑だよ。

チヨ おい、抱きしめろよ。

直志 無理！

チヨ 俺の魂が抱かれたがってんだよ。

直志 俺の魂が全力で拒否してんだよ。

チヨ 勘違いすんなよ。俺だつてやだよ。やだけど、しょうがねえんだよ。魂はチヨだから。

直志 テメーなんかチヨじゃねえ！

チヨ ひでえ…。たーちゃん、ひでえよ！（泣く）

直志 ああ、ごめん。言い過ぎた。

チヨ あんまりだよ！どんだけお前のこと探したと思つてんだよ！てめえ、俺のことなんか忘れて生きてきたろ？不倫なんか楽しんじゃってさ！俺を探せよ！なに、他人に大事なセリフ言ってくれちゃってんだよ。「生まれ変わったら結婚しよう」って。あの松田聖子みたいな言葉、信じて生きてきた男だっているんだよ！

直志 お前と郷ひろみだけだよ。

チヨ あの人ら、次で一緒になれるかな。

直志 無理っぽいな。

チヨ 会えても、「こいつのことだつてあるしな。」

チヨ、レジートを眺めてる。

直志 仕事なんかいいだろ、今。

チヨ たーちゃん、どのくらい、前のこと覚えてる？

直志 いや。

チヨ そっか。

直志 最近、やたらにデジヤブが多いなとは思つたし、軽く未来予知みたいなことできたから、いよいよだなと思って自殺しようと思つてたけど。

チヨ 急に重いの出てきたね。

直志 まさか、2回目の人生とか。チヨは？結構覚えてるみたいだね？

チヨ 俺は、今回、しっかり覚えて。あとは、たーちゃん探すだけ、みたい。たーちゃんとハスタートラインが違ったかもね。

チヨ、レシートを見せる。

チヨ 茨城のグラスデイ。国道50号線のとこにあるイタリアン。

直志 仕事のレシートじゃねえのかよ。

チヨ こつから始まったんだよね。

直志 …。

チヨ 「こんなに美味しいもん、初めて食べた。」ばっくり目開いて言ってた。17歳の時。君はよく通ってたけど、潰れちゃった。

直志 …。

チヨ バカでズサンで大胆だから、なんか思いつきで急にバンドやるんだって言って、闇雲に上京。哲学。パンクとか言ってなんか、よくわかんないけど、将来性のなさそうなバンド結局、中途半端に大衆に媚びた。パンクやって、うやむやに解散。見事なまでに燻ってた。まったくうまくいかなかったよね。

直志 うるせえよ。

チヨ 今回も同じことやってんの？

チヨ、また一枚レシートを出し、

チヨ バイトで入ってた東松原のレストランにそのまま就職。コックになった。その時、私は君の夢を聞いた。「忘れられない味がある。だけどその店はもうない。それを再現するのが俺の夢だ。」私は安心した。17歳の時と同じ目してたから。

チヨ、また一枚レシートを出し、

チヨ 味音痴のたーちゃん、味の再現なんて大変なことだった。だけどこの店で、気付いた玉ねぎなんだ。玉ねぎが大切なんだ。毎日毎日炒めて、せまいワンルームだったから部屋がいつも香ばしい匂いだった。部屋干しなんてできなかった。

直志 金がなかったからいつもそれをライイスに乗せて喰ってた。

チヨ 嫌いじゃなかったよ。

直志 うまそうに喰ってた。

チヨ、次々にレシートを出し、

チヨ この店で挽肉に鶏肉を混ぜることに気付いた。

直志 チヨと別れた。

チヨ 浮気なんかするから。

直志 お前が許さないから。

チヨ この店で黒胡椒のひき方に気付いた。

直志 チヨとヨリを戻した。

チヨ この店でトマトのポテンシャルに気付いた。

直志 塩をまぶして放置するだけだけど。

チヨ また浮気した。

直志 今度はチヨがね。

チヨ 浮気じゃない。

直志 うん。

チヨ 本気だった。

直志 そうだ。

チヨ ごめんね。悲しませちゃったね。

直志 一回ミートソース作るのもやめた。お前に喰わすために作ってたって気付いた。でも戻ってきたから、俺、すげえ嬉しかった。

チヨ また作り始めた。それで、この店(今いる店)に辿り着いた。

直志 この店でそもそも、麺が違ってたことに気付いた。

チヨ 遅いよね。

直志 遅かった。

チヨ 遅かった。

直志 気付くの遅かった。チヨが戻ってきてからの1ヶ月が、あまりにもしあわせ過ぎちゃって、別れるのキツかった。

チヨ 気付いてたら、戻らなかったんだけど。

直志 ∴子供できてたね。

チヨ ∴。

直志 俺の子だったらよかったんだけど。

チヨ それで、もう、ミートソース作るの、やめちゃったんでしょ？

直志 なんで知ってるの？

チヨ 阿佐ヶ谷好きだったから、阿佐ヶ谷にミートソースの専門店作るんだって言うってたじゃん。ちよいちよい阿佐ヶ谷でそういう店探したけど、結局、死ぬまで、そんな店見つからなかった。

直志 だったら、がんばってりやよかったな。

チヨ がんばってるじゃん。今。

直志 今がんばってもさ。

チヨ なに？

直志 お前、男なんだもん。

チヨ じゃあ、

直志 そうな！次な。次か。めんどくせえな。

チヨ そもそもそっちが間違えたんだかね。

直志 は？

チヨ そっちが「俺、女っぽい」とあるから次は俺女に生まれ変わるよ」って。だからこっちは男に生まれたっつうの」。

直志 だって実際生まれ変わるなんて思わねえじゃん！

チヨ 会えるとも思わないよね。

直志 そうだよ。なんの確証もないことなんか信じられつかよ。

チヨ 信じてたからこっやって会えたんだけどね。

直志 …。

チヨ 愛してたよ。

直志 なんだよ急に。

チヨ 前と違うからさ、がんばりなよ。自信もって。前も、グジグジして、バカでズサンな男だったけどさ。前は、ミートソース、完成できなかったけど。今回は、完成させたんでしょ？

直志 だから、何をがんばんだよ！

チヨ 好きな女に喰わすために作ってたんでしょ？

直志 だから、お前が男なんかに生まれつかから！

チヨ 私じゃないよ。

直志 何言ってるんだよ！お前のために作ってたんじゃないよ！

チヨ でも私、男に生まれちゃったから。

直志 やつと会えたんじゃないかよ！

チヨ そうだよ。「会えた」から、もういい。

直志 もういいと言っつなよ！

チヨ そっちは二回目かもしれないけど、こっちはもう何回も生まれ変わってるのよ。

直志 何回？

チヨ わかんない。

直志 だって年にしたら何年だよ。何年待ったんだよ。

チヨ 何百年探したかな。そういうの。どういっシステムかわかんないけど。もう疲れちゃった。

直志 だから、次にさ。

チヨ 次は、もうないよ。満足しちゃったもん。私。

直志 そんなこと言っつなよ。

チヨ 会えたんだからいいじゃん。会えたんだから。ねえ、会えたんだよ？

直志 しっけーよ！

チヨ 会えたんだよ。間違えちゃったけど、会えたんだよ。
直志 待ってるよ。今作るから。喰えよ。俺のミートソース・スパゲティ。ちっと倉庫。取ってくる。

直志、去る。

チヨ おい！

直志 …。

チヨ 今も好きだよ！

直志 …。

チヨ 聞いている？

直志 (遠くから)うるせーよ。

チヨ やつと言えた。

チヨ、去る。

あかり、戻る。

あかり 何やってんの？散らかして。

直志、戻る。

直志 チヨ。あかりっ？どっちでもいいや。

あかり よくない。

直志 会えたらそれでいいのかよ。

あかり は？

直志 会えたくれえで満足してんじやねえよ！俺は満足できねえかな。あかり。言っわ。どうして俺、これと言えなかつたんだろっ。どうしても離したくない。離婚して俺と一緒になつて欲しい。

あかり、大笑い。

直志 笑ってんじやねえよ。

あかり 何回同じこと繰り返すの？

直志 は？

あかり あなた、それ言っの、何回目だと思っ？

直志 え？

あかり

次は、あなたの子供に生まれるね。そうしたら、ずっと一緒にいられるし。そうしたら今回はあなたに言えないことを、言えるから。それじゃだめ？テーブルの上のミートソース・パゲティ。フォークでくるくるしながら、言っよ。

直志

なんて？

あかり

私を愛して。

「ミートソース・グラヴィティ」ア